

令和 5（2023）年度海外研修参加者の英語力伸長度調査・報告書

グローバル教育センター

はじめに

本学国際教養学部では、カリキュラムの一環として、基本的に 2 年生は全員、2 年次後期に海外研修（留学）に参加します。研修先大学は、英語圏 5 カ国（アメリカ、カナダ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランド）に 15 大学あり（令和 5 年度現在）、研修中、学生は各大学の ESL プログラムに所属し、フルタイムの学生としてそれぞれの英語力に合ったクラスで授業を受ける一方、1 学期間を通して、自由研究論文を含む、ポートフォリオ（15,000 ワード以上で構成される課題集）の作成が課されます。海外研修の主たる目的は以下の 5 つです。

- 1) 異なる言語・文化・価値観を理解することができる能力（異文化理解力）の育成
- 2) 異なった文化を持つ人々と建設的及び協調的人間関係を構築することができるコミュニケーション能力の育成
- 3) それらの能力を基礎に課題を発見する力（課題発見力）の育成
- 4) 自分なりの結論を導き出すクリティカル・シンキング力の育成
- 5) 実践的英語運用能力の育成

上記目的中の「5)実践的 英語運用能力の育成」の成果を測るべく、令和 5（2023）年度に海外研修に参加した学生を対象に、その英語力の伸長度を、TOEIC 試験（Listening and Reading）の得点を指標として検証しました。以下がその検証結果となります。

1. 分析対象データ

海外研修（留学）期間	2023 年 8 月から 12 月		
学生数	47 名（渡航組、国際教養学部 2 年生）		
TOEIC の成績の平均点	留学前	留学後	留学前後の伸び
Listening	278 点	339 点	61 点
Reading	180 点	223 点	43 点
Total	458 点	562 点	104 点
最高点	695 点	710 点	-
最低点	285 点	360 点	-

注1) 留学前の成績は、留学前に受験した TOEIC 試験の最高点を使用。

注2) 留学後の成績は、留学後に受験した TOEIC 試験の最高点を使用。

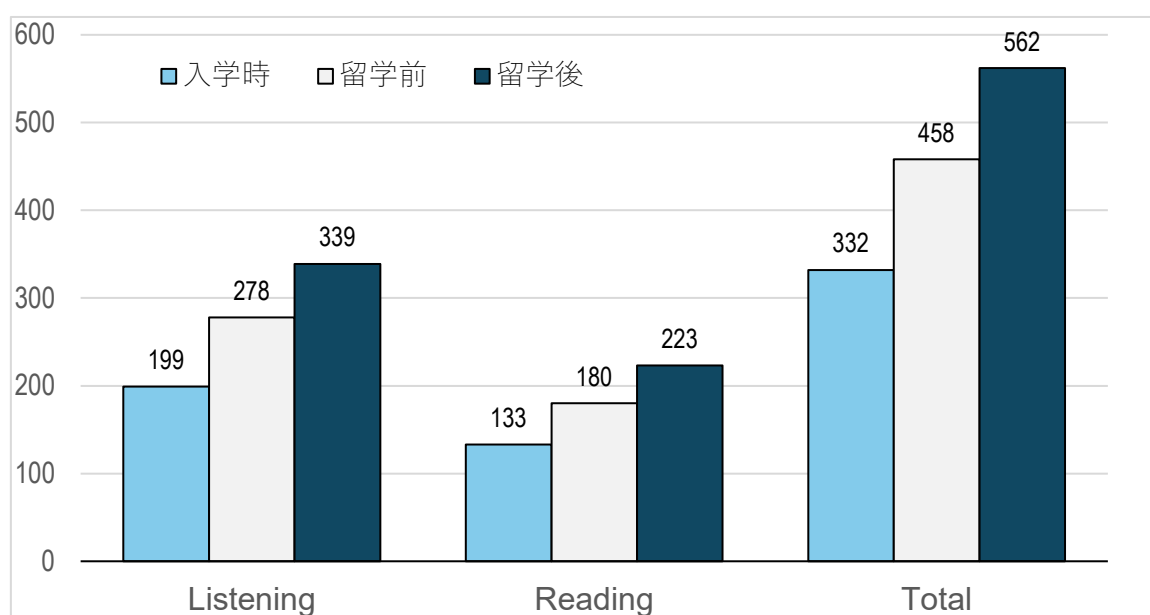
2. 留学前後の TOEIC 成績の推移

図 1（Figure 1）に入学時・留学前・留学後の TOEIC 成績の推移を Reading (495 点満点)、Listening (495 点満点)、Total (990 点満点)ごとに示します。

TOEIC の成績は、平均点で留学前の 458 点から留学後の 562 点へ 104 点伸びており、内訳としては、Reading の平均点は留学前の 180 点から留学後の 223 点まで 43 点、Listening の平均点は留学前の 278 点から留学後の 339 点まで 61 点伸びています。参加学生 47 人の中に TOEIC500 点以上を達成していなかった学生が 31 人いましたが、海外研修後には 27 人が 500 点以上を達成し、最低点も 285 点から 360 点に上昇しています。

ちなみに、入学時の英語力（TOEIC の得点にみる）は、2 年の学修期間を経て、平均で 69% 強伸長（332 点から 562 点と 230 点増）していることがわかります。

Figure 1. Changes in TOEIC scores (at the time of admission, before study abroad, after study abroad)



3. TOEIC（総点、Reading、Listening）の成績分布

以下に留学前後の Reading と Listening の合計得点の得点分布（Figure 2）及び Reading と Listening、それぞれの得点分布（Figure 3）を示します。留学前に比べ、留学後の Listening は全体的に高得点側にシフトし、6 人を除いて全員が 300 点を超えています。一方、Reading については一律の高得点シフトではなく、分布が幅広くなり、留学後でも 250 点未満の学生が 34 人（76%）います。Listening 力については、海外に長期いることにより英語を聞く時間が日本にいる時に比べて圧倒的に多くなったこと、また、本学学生のほとんどがホームステイをするため、授業のみならず、宿泊先（家）でも常に英語を聞き、話さなければならない環境に置かれていたことに起因するものです。特に、生きたコミュニケーションを多くした結果、他人の言葉を聞く時の集中力が無意識に高くなるという習慣性が身についたことも大きな要因であったと考えます。但し、もともと総体的英語力が低かった学生（特に文

法力、語彙力等) については、音を聞き分ける力はついたとしても、それを分析する力の欠如から大きな伸長は見られないことも分かります。

Reading 力については、Listening 力に比べるとその伸びが小さいことがわかります (Listening は 61 点の伸び、Reading は 43 点の伸び)。これは Listening 力が、基本、無意識の受け身の学習成果 (英語を多く聞くことのみでも学習効果がある) である一方、Reading 力の向上には意識的な能動的学習が必要であることがその理由と考えます。つまり、総体的かつバランスのとれた英語力の向上には、ただ海外に長期滞在するだけではなく、日本でも行うことが重要な、英文構造 (文法) や語彙・表現力に係わる自発的な机上の学習が必要となるわけです。

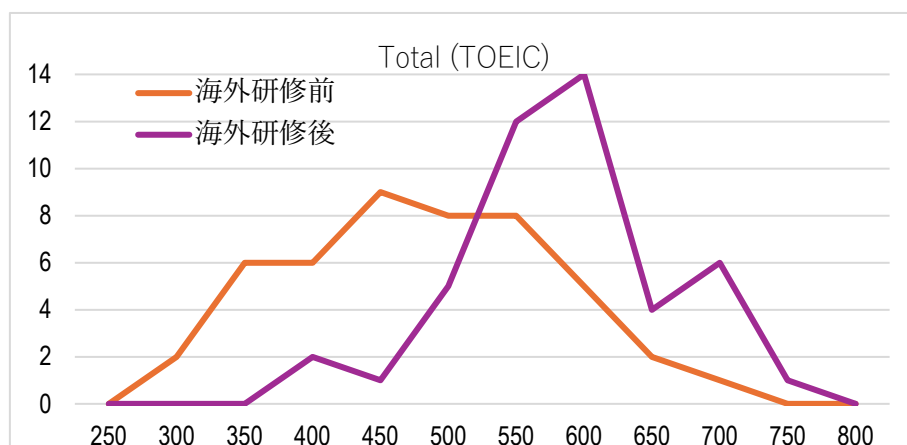


Figure 2. Score distribution of TOEIC (Total)

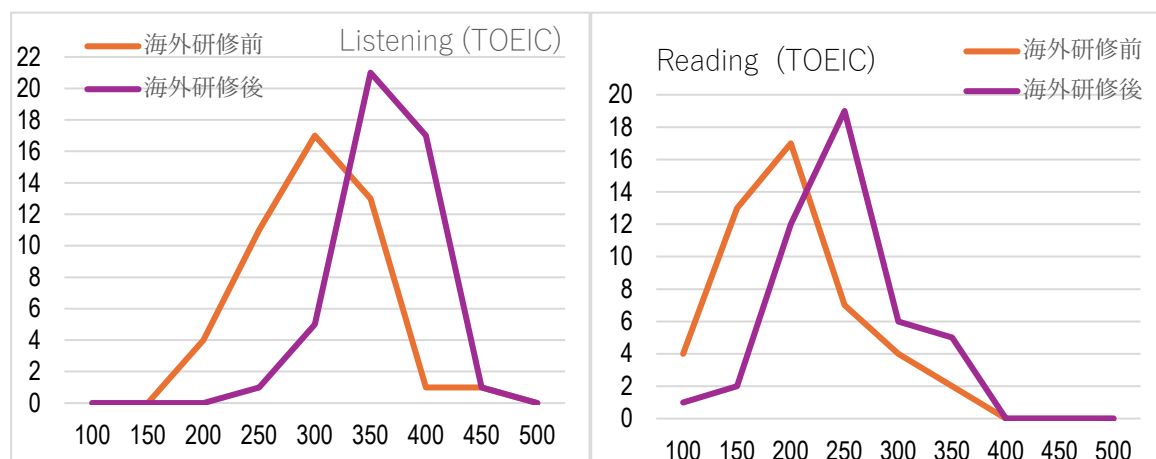


Figure 3. Score distribution of TOEIC (Listening and Reading)

おわりに

本報告書では、令和 5（2023）年度に海外研修に参加した学生の「実践的英語運用能力」における伸長度を TOEIC の点数を測定基準として検証しました。その結果、海外研修プログラムが「実践的英語運用能力」向上において意味のある一定の効果があることが判明しました。今後の課題は、昨年同様、冒頭に記した海外研修の主たる目的の 1) から 4) の向上度を測る効果的かつ客観的指標の策定と、海外研修中における学生の英語の自学自習を促進する指導方法あるいは教材等の開発です。今後とも海外研修プログラムの効果の最大化を目指した取組を継続して行ってまいります。